

## Q&amp;A

## 急速に増大する胃粘膜下腫瘍に対して手術を施行した、最終診断は？

## 【問題】

症例：60歳代男性.

主訴：なし.

現病歴：健診で施行された上部消化管内視鏡検査で、胃穹窿部大彎前壁よりに15mm大の粘膜下腫瘍を指摘された。前年の同検査では指摘なく、急速に増大する胃粘膜下腫瘍の診断で、腹腔鏡内視鏡合同手術として非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術を施行した。

血液検査所見：白血球 4500/ $\mu$ l, 白血球分画：好中球 51.9%, リンパ球 33.7%, 単球 5.2%, 好酸球 7.9%, 好塩基球 1.3%.

上部消化管内視鏡検査：胃穹窿部大彎に弾性硬の粘膜下腫瘍を認め (Figure 1), 超音波内視鏡では第4層由来で内部構造不均一な腫瘍として描出された (Figure 2).

PET-CT 検査：胃に病的な腫瘍性病変を指摘できず, 有意なリンパ節腫大や集積上昇を認めなかった。

## 考えられる診断は？

解答は (1708p) に掲載



Figure 1. 上部消化管内視鏡検査所見：胃穹窿部大彎前壁よりに15mm大の粘膜下腫瘍を認める。

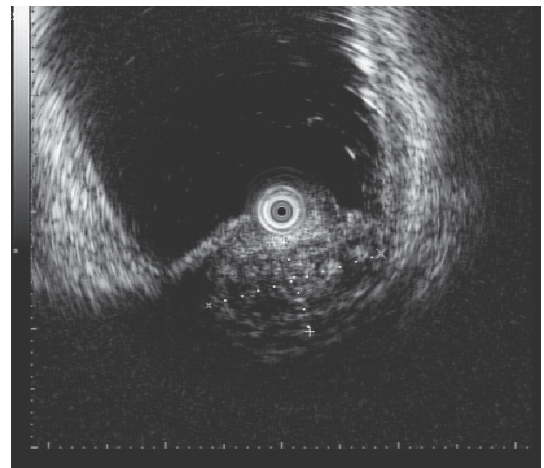


Figure 2. 超音波内視鏡検査所見：第4層由来で内部構造不均一な胃粘膜下腫瘍として描出される。